

第1問 以下の問いに答えよ。

YouTubeのチャンネル、A～Gについて、下の表に示すようなデータを得た(データはあくまでも仮想的なデータであり、YouTubeの実態を示すものではない)。データ数としては当然不十分であるが、もし、このデータが手元にあった場合、どのようなYouTubeの運営を行えば、登録者数を上げることができると考えられるか。あなたがこのデータから、検討するに値すると思われる仮説を導き、その仮説と、その仮説に対するあなた自身の解釈を、800字から1,000字程度で論じなさい。

| | A | B | C | D | E | F | G |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 登録者数 | 400万人 | 700万人 | 500万人 | 450万人 | 800万人 | 400万人 | 350万人 |
| ジャンル | 旅行 | 美容 | 料理 | ゲーム | ゲーム | 旅行 | 料理 |
| 更新頻度 | 週3本 | 週5本 | 週7本 | 週3本 | 週7本 | 週4本 | 週2本 |
| 主要視聴者層 | 30代女性 | 10代女性 | 20代女性 | 10代男性 | 10代女性 | 20代男性 | 30代男性 |
| オープニングの有無 | 無 | 無 | 有 | 無 | 有 | 有 | 有 |
| 次回予告の有無 | 無 | 無 | 有 | 有 | 有 | 無 | 無 |
| 企業とのコラボ | 有 | 有 | 有 | 無 | 有 | 無 | 無 |
| 一本の動画の長さ(平均) | 14分 | 15分 | 22分 | 12分 | 12分 | 21分 | 12分 |
| 一本の動画の再生回数(平均) | 10万回 | 17万回 | 13万回 | 11万回 | 20万回 | 10万回 | 9万回 |

解答例

データから「登録者数が多いのは10代及び20代の女性を対象としたチャンネルであり、登録者数に関係していると思われるのは更新頻度、企業とのコラボの有無、再生回数である。企業とコラボレーションした上で週に5本以上更新し、再生回数が20万回に近づくほど登録者数が多くなっている。登録者数の多いチャンネルのジャンルはゲーム・美容・料理だが、これらは10代、20代といった年齢によって関心が異なるためであろう。オープニングや次回予告についてはあったほうが良いと思われる」ということが読み取れる。

ここから、「美容をジャンルとして10代女性を主要視聴者層とする。動画はオープニングと次回予告をつけ1本15分ほどの長さで週に6～7本の更新頻度とする。そして視聴者数を増やす中で企業とのコラボが可能になるようにする。こうした運営によって登録者数を上げることが出来るようになる」という仮説が立てられる。

YouTubeはAIが動画の質のインプレッション判断をし、おすすめや関連動画に掲載させるといった仕組みを持っている。AIによる判断には、動画のクリック数、視聴時間数が鍵になる。登録者数を上げるには検索からの視聴者数及び再生回数の増加を目指すことである。一方、視聴者は何かしら問題や不安を抱えており、できるだけ効率的に答えを見つけないという思いから動画を視聴すると思われる。そうした視聴者の需要を満たすことが出来て初めて視聴維持率を高めることになり、検索上位に位置づけられるようになる。また、継続的に視聴してもらうためには投稿頻度が高い方がよい。更新頻度が低いと視聴者の離脱を招くことになりかねないからだ。

10代に限らず女性の多くはコスメやファッションに関心を持っていると言われている。スマートフォンに普及に伴い10代の女性たちはコスメやファッションの情報収集にSNSやYouTubeを活用していると考えられるので、美容というジャンルは関心事としても情報収集対象としても視聴者数を増やす可能性が期待できる。新規の視聴者の獲得、視聴者の継続的な視聴、登録者数の獲得のためには、内容として様々な商品のレビュー及び芸能人や有名人のメイク方法や新商品を紹介する動画とし、視聴者が見て参考になったなどの紹介動画を定期的に投稿することが適切だと思う。

以上から登録者数を上げるために導き出した「仮説」は正しいと私は考える。

傾向 ◀ 典型的な資料読解問題

本年度は資料読解型の論述問題であった。資料は「YouTube」に関するものであり、データから仮説を導き、その仮説に対する解釈を問うという典型的な資料読解問題であった。前年度は「ウィズ・コロナ、ポスト・コロナ社会におけるコミュニケーション」を問うという典型的な時事問題を扱った課題文読解問題であったので、戸惑った受験生も多かったと思われる。制限字数は800～1,000字程度で変わっていない。

対策 ◀ 他の形式についても練習しておこう

本年度の総合問題はデータから情報を読み取るタイプの出題であったが、前年度は課題文読解型であったので、出題形式にとらわれない方がよい。そこで対策は2点となる。1点目は「課題文読解型」に対するものである。まず、時事問題を取り上げた新聞記事を課題文として、その要点を100～200字程度でまとめる。次に論点に対して賛成、反対といった自分の立場を明確にした上でその理由を明らかにする。初めの内は社会科学系の課題文読解型の問題で課題文と解答例を読み込み、知識や発想を吸収していこう。

2点目は「資料読解型」に対するものである。データの解析つまり資料の読解は練習しなければうまくいかない。社会科学系や自然科学系の資料読解型問題で練習すると効果的である。なお、解答作成の際は「〇〇年の××という項目の数値は□□だ」というような、「単なる数値の列挙」に終始しないように注意しよう。今年度の問題で具体例を挙げるならば「Eは登録者数で800万人、週7本の更新頻度で20万回の再生回数だ」となる。重要なのは、特徴的な箇所を指摘してその背景や原因が何によるものかを述べることである。

学習法 ◀ 他大学の過去問も最大限に利用しよう

初めに資料の読解を練習しよう。資料読解型の問題は社会科学系、自然科学系学部学科に多く見られる。今後もデータから情報を読み取って述べる論述問題も想定されるので「どのように読み取るか」が学習の第一歩といえる。資料読解型の問題は本年度のものしかないで、他大学の社会科学系学部学科、自然科学系学部学科の過去問を参考にすると良いだろう。提示された資料から何を読み取るか、何が読み取れるか、どのように読み取るのかなどを吸収することだ。できれば資料読解用のノートを用意すると良いだろう。資料をコピーしノートに貼り付け、資料のどこからどのようなことが読み取れるのかを書き加えていく。これを繰り返すことで「分析力」を身につけることが出来る。

また、これと並行して他大学の総合問題に取り組むことも大切だ。他大学の総合問題には論述だけではなく空欄補充問題や内容説明問題なども出題されているので、こうした設問にも対応できるようにしておこう。尚、課題文読解型論述問題の練習に取り組むことも忘れないで欲しい。